

### 【受験の動機】

私は大学院で応用生命工学を専攻していた根っからの理系で、経営等とは無縁の日常を送っておりました。ある時期会社で営業の間接部門に異動となり、営業と生産・流通、システム部門との橋渡しの役割を求められるようになったのですが、当然のことながら専門外の分野のことは何ひとつ判りません。調整しようにも素人が意見できることは非常に限られてしまい、とても歯痒い思いをしていました。

そんな時に、家業を継いで既に経営にも携わっている大学院の同期から、自身も取得したと強く勧められたのがこの資格でした。今の自分に足りないものが体系的に学べるとあって、すぐに興味を持ち始めました。

### 【昨年までの学習】

一次試験は、大手予備校のテキストを使い完全独学でした。子供が生まれたばかりでまとまった時間が取り難かった自分ですが、一次試験は性質上、勉強を着実に積み重ねることで少しずつでも合格へ近づけるのでなんとか2回目の試験で突破することが出来ました。

二次試験は、大手予備校の直前講座(全14回程)のみで学習をしました。各事例の性質や基本的な回答の仕方をここで知ることは出来たのかもしれませんが、思えば答案作成の「軸」と言いますか、自分の中で頼るべきルーチンを作ることに考えが至りませんでした。そのような状態で挑んだ一回目の二次試験の絶望の感覚は、今でも鮮明に覚えています。例えるならば、「初めて滑るアイススケートで、ガイドも手摺りもない状態で他の選手と上位と争う」

### 【SLAを選んだ理由】

はじめ SLA を知ったきっかけは再現答案採点サービスを SNS で見かけた、くらいの些細なものだったと思います。

不合格とわかってから暫くやる気をなくしていた私が、年明けに漸く重い腰を上げ、まず行ったのは頼るべき予備校探しでした。二次試験はとにかく勉強量を積み重ねれば良いというものではない、それどころか誤った考え方のまま無闇に過去問演習を消費してしまえば取り返しがつかない。そんな予感が一年目の受験経験から培われていました。

Web や SNS で慎重に情報を収集し、最終的に自分の性格に合っているのではないかと行き着いたのが SLA で、説明会を聞きそ

れは確信に変わりました。

決め手は「少人数制による双方向授業」「過去問中心かつ多面的な講義」「合格実績」でした。

### 【SLA 講座の特色】

読む、書く、考える。シンプルにこの能力を徹底的に鍛え上げることに特化している点。

過去問演習は「正解を導き出す」ことではなく、80分の中で自分に書けるベストな答えはどこにあるのか？ということに重要視します。添削では、良かったところ、足りないところ、直した方がよい表現等のコメントを頂きました。(模範解答の存在しない試験なのでこれがある意味自然かもしれません)

自宅学習では実際の合格答案数例を参照しながら、自分の答案に足りない点があるかや、良く書けていた点、使うべきだった/使うべきでなかった表現は何か、結局どこまでだったら書くことが出来そうなのか…というようなことに80分の何倍もの時間をかけて徹底的に、事例と自身に向き合いました。これを数か月繰り返していく中で、自分の能力と診断士試験の相対的位置関係がしっかりと把握出来た上で、成長を実感出来たと思います。

事例とは、中小企業とは。ということに深く考えを巡らせる機会を与えられた点。

私もそうでしたが、診断士試験受験生は目の前の試験を打ち負かすことに意識を置きがちで、その試験の背後にある中小企業というものが見えなくなってしまうことが多々あるのではと思います。ですが突き詰めるとこの試験はいかにA~D社という中小企業(つまりは、与件分と問題文)に寄り添えるかということに全てがかかっていると思います。

講義外の家庭学習では、要約で読み書きの力を養ったり、A~D社という中小企業を深く理解する取り組みもしました。これにより実践的な力を向上させると共に、診断士になった後の自分の姿をリアルに想起させることでモチベーションがアップする副次的な効果もあったと思います。

### 【受験後から合格発表まで】

受験後はすぐに再現答案を作成し、倉前先生にお礼のメールを送りました。去年は手応えが全くなく再現答案を作らなかった…というより作れなかったもので、今年は、解答手順をトレースして再現答案を作成することのできた自分に大きな成長を感じました。

直後はそれなりにあった手応えですが、情報をシャットアウトする勇気も無かった私は、予備校の模範解答やWeb上の優秀な再現答案を見るにつれて、だんだんと自信を失っていきました。再現答案を眺めては、「そこそこ出来てるじゃん!」「でも他の人に

比べると全然…」と一喜一憂をエンドレスに繰り返す、人生で一番長い7週間だったと思います笑

令和2年12月11日、落ちた時のショックを和らげるため少しでも特別感を出したくなかった合格発表は、時差出勤の通勤電車内で迎えました。しかしスマホで結果を確認する自分の手は間違いなく震えていました。

結果は、合格。人生初の嬉し泣きを経験しました。

### 【最後に】

二次試験のノウハウはweb上で溢れる程に共有されていますが、その内容は玉石混交です。高い費用対効果を得ようとそれらに頼りたい気持ちは判りますが、情報の精査とそれを適切にアクションに移すことは考えている程容易なことではないと思います。

私はこの一年、敢えて二次試験の解法ノウハウ等の情報が目に入る機会を最小限に留めてきました。それが結果として、SLAで倉前先生に教わり自分の中で築き上げた解法の「軸」をブレさせず、一回目の受験時にはなかった、試験本番でのよるべを作ることが成功させたと思っています。

よく言われることですが、診断士合格はゴールでなく、スタート地点です。これから有資格者となる自分に何が出来るのか、まだ判らないことだらけですが、ただこの先の社会人人生を想像するとワクワク感が止まりません。

ここまで来させて頂いたSLAと倉前先生に心より感謝申し上げます。